

1953, 12~1954, 1

国立近代美術館 フィルム ライブラリー



No. 16

## Louisiana Story

### フィルム・ライブラリー

#### 開設一周年を迎えて

国立近代美術館では、昨年末設立以来同館内に定員約百名の映写室をもつフィルム・ライブラリーを設けて、内外古今の優秀映画の収集保存ならびにその活用を努めて来ました。この一年間に映写会としては、毎日二回短篇映画を主とする映写会を、又毎週水曜日には歴史的価値のある芸術性豊かな映画の特別鑑賞会をそれぞれ開きました。

特別鑑賞会では、現在一般には鑑賞の機会に恵まれない無声映画時代の代表的作品として、フリッツ・ランクの「ジークフリート」(一九二四)、E・A・デュボンの「ヴァリエテ」(一九二五)、ジャン・エプスタンの「アッシャー家の末裔」(一九二八)等六本を、又毎日の映写会では、日・英・米・仏・独・伊・ソ各国の科学・学術・文化・教育・記録・美術等各分野の短編映画の傑出した作品を取り上げて、適宜上映し一般の映画研究者・愛好家に好評を得ました。

今回は開設一周年を記念して、記録映画の代表作「ルイジアナ物語」(ロバート・フラハーティ)を毎日上映いたします。

今後も資料の収集保存とその活用・調査研究等フィルム・ライブラリーの事業を漸次拡大充実させたいと考えております。皆様方の御支援をお願いいたします。

### ルイジアナ物語 九巻

#### 一、その意義

これは、「記録映画」の最大の先駆者であり、最高の作家のひとりでもあるロバート・フラハーティの最

ロバート・フラハーティ作品

近の、そして最後の作品である。そこには、記録映画の本来的いきかたがよくうかがわれるとともに、記録映画の中でも独特の境地をきざきあげたフラハーティの作風がはつきり現われている。

「記録映画」(ドキュメンタリー・フィルム)は、自然と人間を物語のためにとりあげる劇映画とちがひ、また自然と人間を表面的に再現する旅行映画のたぐいとちがひが、映画の一つの意義深い独自の領域をかたちづくつていて、それは自然と人間とをその実地について深くとらえ、そうしてえられたものに作家の意図と個性にもとづく解釈を加えて、その自然と人間の本質が啓示されるような物語を記録の基盤に立つて創造するものである。それはいわば自然と人間のための、自然と人間による、記録的物語映画なのであるが、このような態度と方法をうちたてる上に最大の寄与をなしたげた人が、フラハーティにほかならないことは記録映画界の通説とされているところである。

この記録映画にももちろんさまざまの流派が存在する。名著「記録映画論」の著者ポール・ロースは、その代表的なものとして、自然主義派(ローマン派)、写真主義派(大陸派)、ニュース映画派(プロバガンダ派)をあげているが、自然主義派については敘述の大部分をフラハーティにささげている。たしかにフラハーティの作風は、自然と人間に対する深い理解と思いやり、自然と人間の「詩」を感得しうる能力に裏づけられつつ、人びとの生存のための基本的なたたかひのすがたを、美しく印象的な画面によつてくりひろげる「牧歌的ドキュメンタリー」と規定できるであろう。フラハーティの作品が見るものの心をうつみ力と、人によつていただくかもしれぬある程度の不満とは、すべて以上のような作風によつてもたらされてくる。「ルイジアナ物語」もあきらかにその縁にそつたものである。われわれはこの作品を見ることによつて、三十年

にわたるフラハーティの努力のあとに心からの敬意を表する機会が与えられるとともに、また記録映画のさまざまないきかたとその効果について、これからの記録映画の進むべき道について関心をよびおこす機会も与えられる。

#### 二、その作家

フラハーティは一八八四年アメリカのミシガン州に生まれ、一九五一年七月二三日にそのかがやかしい一生を終つてゐる。かれの第一作は同時に記録映画の第一ページをかざることになった「北地のナマック」(一九二二年)で、その後「モアナ」(一九二六年)、「タプ」(一九三二年)、「産業ブリテン」(一九三三年)、「ジョン・ガリアソンと共作」(「アラン」(一九三四年)、「象使いの少年」(一九三七年)と、いずれも記録映画界の古典的名作として激賞された作品が発表され、最後にこの「ルイジアナ物語」を一九四八年に完成してゐる。

フラハーティの作品の主題はつねに「自然に対する人間のたたかひ」であり、「文明の進歩は自然を自分の目的に従わせる人間の能力の増大と、資源を自分の目的のために活用できる技能の進展にかかつてゐることを実証する」(ロース)ために、人間の根源的ないとなみを中心とする「うちつづく昼と夜の、めぐりくる季節のドラマ」(ガリアソン)を、真の芸術家に特有のヒューマニスティックな心情・内的洞察力・詩的理解・そしてすぐれた劇化能力をもつて、スクリーンの上に創造し躍動させることがかれの本領をなしているといえる。

これに対して、その偉大な達成のほどを十分にみとめながら、フラハーティは「人間の自然に対する原始的な交渉の面だけに集中しており、過去のな生活のありかたに心をうばわれすぎていて、いわば逃避的なセンチメンタル・リアクションにおちいつた傾向がある」

(ローザ) という批判も提出されている。そうした見かたがどこまであてはまるかは各人の判断にゆだねたいが、ともかくフラハーティのすばらしい業績がその「詩人的特質」のたまものであることは関心の対象とならざるをえない。

### 三、その物語

水郷ルイジアナ、沼と原野と原始林のひろがる静かな自然、ピローグをあやつりなどしてそこを遊び場とするフランス系民族の少年アレクサンダー・ナポレオン・ユリシズ・ラツール。やがて少年の家の前の水底から石油を掘り出そうとして、「文明」がこの自然境に侵入してくることとなった。巨大な機械をもつてする自然とのほげしいたたかいははじまりつづけられる。それにこたわりなく同調する少年と、なかなかそうはいきかねる父母たち。ついに油井塔の作業は成功したが、猛烈な可燃性ガスの噴出によつて動きがとれない。しかし少年の期待どおりに事態は好転する。そして、水面にうかぶ石油の噴出口につかまつた少年に見送られつつ、油井塔をのせた機械船は勝利者として町へもどつていく。

### 四、その背景

ルイジアナ州はミシシッピ川の河口に発達した洲で、沼や入江が多いところから「入江の洲」という別名が、アメリカ第一の砂糖生産量があるところから「砂糖の洲」という別名がある。フランスの移民の足跡が最も多く残つていて、住民もフランス系が多数をしめ(アレクサンダー少年の属するケイジュン族がそれ)、法律も習慣もアメリカよりはフランスに近い。このルイジアナは、ずつとアメリカの中心からはなれて孤立した生活をしていたために、特異な様相をもつロマンチックな自然と人間のすがたをくりひろげている。鳥の種類や毛皮の産出量はアメリカやカナダのどの州より多く、また水路がいたるところをとおつて

いるので、今日でも自動車がピローグ(イトスギ材を手ほりにしたカヌーの一種)にとつてかわれずにいるほどである。住民の宗教はほとんどすべてカソリック、そしてカソリックの国でよく見られるように、こゝでも大家族でくらすものがすくなくない。

ルイジアナの石油、岩塩、天然ガスの産額はアメリカ各州の上位にある。石油は南部の沼沢地に最も多く、現在アメリカ第三位の大石油産地をなしている。この石油とそして天然ガスの発見は、それまで太古のままの静けさをたたえていた水郷ルイジアナのおもかげに重大な変革を加えたもので、フラハーティは、この原始境に最初の文明がはいつてきた瞬間をとらえようとしたわけである。

しかし、そうした近代産業のめざましい発達にもかかわらず、ルイジアナはいまでも、アメリカで一番静かな、そして古風な生活様式を保持している州の一つであり、また散文的なアメリカ文明の中でただ一つのロマンチックな夢をのこしているところだといわれている。フラハーティがそれに心をひかれてこの「ルイジアナ物語」をつくりあげたのは当然のすじみちというべきであろう。

(関野嘉雄)

◎フィルム・ライブラリーの運営委員は次の方々です

日本映画連合会事務局長	池田義信
映画評論家	飯島 正
日本監督協会理事長	牛原虚彦
日本映画技術協会常任理事	島崎清彦
国際フィルム・ライブラリー関係	清水 晶
教育映画関係者	関野嘉雄
美術評論家	滝口修造

(五十音順、敬称略)